

①どこへ行き何をしたのか

陸前高田市気仙町上長部地区、津波を受けた畑の瓦礫拾いと杉丸太皮むき。

②現地の様子は

陸前高田市街地は大きな瓦礫は撤去され、倒れなかったビルが点在する荒れた更地の広がり。瓦礫の山脈とつぶれた車の集積。津波被災地以外の地区は豊かな農村風景に見える。活動した上長部地区は海が見えない直線で3kmくらい長部川の上流、田んぼと畑の農村。津波が川を遡上し民家と魚の冷凍貯蔵庫をのみ込み、瓦礫と冷凍サンマが散乱した。遠野まごころネットで継続して支援、現在はこぶし大の瓦礫が残り、引きつづき人海戦術で拾う。地区の人たちとの交流の場として小屋を作るため、汐をかぶり立ち枯れた杉皮をはぐ作業をしている。

③現地をどう感じたか

被災地の広さ、津波被災地の際だち。

調布から高速道で9時間、宇都宮ぐらいから高速道の修理点在する。東野から陸前高田まで休憩はさみバスで1時間20分、津波被災地域に入ると景色が一変する。津波被災地が、際だって見える。

④社協と遠野まごころネット

行政とボランティアの協力。行政、業者では出来ないところをボランティアが担当。

行政の限界をボランティアが担当、時代が変わったと感じた。

被災者から見て、行政に常に遅い、おおざっぱなどの不満がある。業者にはお金を払うので上下関係が出来る、時間内で帰ってしまう。被災者とボランティアは、して頂く、やらせて頂くの関係で、きめ細かな対応。

⑤18名の同行者と全行程の説明。

⑥これからどうするか。

⑦全体を通して考えたこと。



調布社協募集の東日本震災復興ボランティア3期に応募し、9月28日(水)から10月1日(土)行ってきました。受入れ先は遠野社協内、遠野まごころネット <http://tonomagokoro.net/>

中2日間実働計6時間、作業は150人での畑、小さな瓦礫拾い。2日目、杉皮むき。現場は陸前高田市気仙町上長部地区、当時津波が海から川を約4kmさかのぼり、家をなぎ倒し流れた漁船が少し前まで転がっていたそうです。まごころネットで当初から関わり、腐敗した冷凍サンマの片付けを済ませ、瓦礫撤去を続けています。

メンバーは80歳の人もいて、その人にあった働きをする、疲れたら自分で休む、無理をせず頑張らない。結果を出さなくてもいい、ノルマは課さない、現状を周りの人に広める、自己完結、けがをしない。出来る事をそれぞれが、出来る範囲でする、目から鱗の体験でした。

移動途中の陸前高田市街は、造成前の更地の印象、その中につぶれ破れた車の山、瓦礫の山脈がそびえる。昔見た炭坑の荒れた景色に似ている。

18名という大人数で現地の自治会館で宿泊、それぞれ話が弾んで、若い人のしっかりしていることに、気づかされました。

調布社協募集の東日本震災復興ボランティア3期に応募し、9月28日(水)から10月1日(土)行ってきました。
現地に行き体験したいと思っていましたので、調布市、調布社協の今回の企画には、感謝しています。

中2日間実働計6時間、作業は150人での畑、小さな瓦礫拾い。2日目、杉皮むき。現場は陸前高田市上長部地区、当時津波が海から川を約4kmさかのぼり、家をなぎ倒し流れた漁船が少し前まで転がっていたそうです。まごころネットで当初から関わり、腐敗した冷凍サンマの片付けを済ませ、瓦礫撤去を続けています。

移動途中の陸前高田市街は、造成前の更地の印象、その中につぶれ破れた車の山、瓦礫の山脈がそびえる。昔見た炭坑の荒れた景色に似ている。

もっとも感銘を受けたことは、ボランティアの基本を見せていただいたことです。その人にあった働きをする、疲れたら自分で休む、無理をせず頑張らない。結果を出さなくてもいい、ノルマは課さない、自己完結、けがをしない。出来る事をそれぞれが、出来る範囲です。してやるのでなくさせて頂く、現状を周りの人に知らせる、目から鱗の体験でした。私も今までにボランティアに参加し、企画し参加して頂いてきましたが、まごころネットの徹底には感銘を受けました。

2番目はやたらに楽しい。若い人も年配の人も障がい者も男も女も、ボランティアという目的でつながっている。金銭が入っていないから優しい、タダだからこそ、このようなことが出来るということを、痛感しました。

色々な人と交流が出来たことも、仕事でないから出来たことです。次回はまごころネットの体育館に泊まりたい。また参加して、もう少し活動したい、不思議な充実感に浸っています。

岩手県仮設住宅集会所で陶芸教室をしてきました。



遠野まごころネットにスケジュールを組んで頂き、釜石市2カ所、大船渡市2カ所、計35名分の木の葉皿作りを行って来ました。作品は持ち帰り焼き上げて直接お送りします。

目的は楽しんで頂くこと。作る、楽しみに出来上がりを待つ、自作を手を持つ、人に見せる、使ってみる、など色々な楽しみを味わって頂く。まだ焼き上がりをお届けしていないので解らないのですが、現地のみなさんに好評なら、つづけて行こうと考えています。

人員と移動



馬場咲夫、馬場万里子の2名。現地で遠野まごころネットスタッフ4名同行。

調布から遠野まで片道580km、約10時間。休みながらなので、それほど大変ではありません。現地1日200km移動。1日の移動がこれほど長距離とは考えていませんでした。

現地ボランティアセンター



遠野まごころネット。遠野市社会福祉協議会と民間で作ったNPO 震災復興支援ボランティア団体。沿岸部津波被害に向けたたくさんの支援を計画実施。個人参加者、団体参加者に仕事を提供。調布社協被災者支援ボランティアセンターは提携していて、調布より15人前後で20期までの募集派遣が決まっています。私は3期で参加させて頂きました。

宿泊は無料、最低限の設備があり、一日でも何ヶ月でも、個人でも団体でも受け入れる。6月時点で平日約70人、休日約140人が参加活動していました。

ホームページから登録すれば、どなたでも利用出来、高齢者、障がい者も参加しています。

実際の活動



釜石市上中島仮設住宅 8名

最初に行ったところで、人数的にはちょうど良かった。皆さん楽しく作陶されたようで終わりに世話人さんから、負けない象の手ふきをいただきました。

大船渡市下権現堂仮設住宅 6名

人数的にはちょうど良く、楽しく作りました。スタッフが若く、賑やかで明るく良いのですが、61歳の私には早口で聞き取りにくく感じました。



釜石市中妻仮設住宅 18名

大人数で私の能力不足もあり、一人ずつへのお世話ができません。かたよらず一人一人への声かけが大切なのですが、この人数では出来ませんでした。もう一つ感じたのが、都会的な人が多く、垢抜けている印象を持ちました。



大船渡市大豆沢仮設住宅 5名

仮設住宅内に不幸があり参加者が少なくなりました。現地の世話人の方の、話を聞く姿勢がしっかりしていて、利用者の話もよく聞けました。落ち着いて作陶も出来て、私としては印象深い場所です。

費用

高速代約20000円、ガソリン代約12000円、食費生活雑貨など3泊4日2名分約20000円。出来上がり作品送料約5000円。陶芸材料焼成費教室負担。

※高速代については9月まで、瓦礫撤去の目的に限り、届けを出すと無料。

これから

報道から震災関係が少なくなり、震災被害の風化が進んでいるように見えます。現地ではまだまだ生活再建が出来ず、先の見えない状態が続く方がたくさんおられます。ボランティアの必要な人数は足りず、また直接でなくても関わることたくさんあります。そして何よりも私たちが忘れないことが大切で、現地の方々の気持ちでもあります。

私は阪神大震災の時何も出来ず、悔いが残りました。たまたま縁があり昨年岩手県にボランティアとして行かせて頂き、今回につながりました。これからも細く長くつづけたいと考えています。

余談ですが、東北でお茶というと、緑茶のイメージがあったのですが、コーヒー紅茶の方が多く、私の先入観が裏切られました。仮設への移動が遠野から一日200kmは私に経験が無く、岩手県は広いと感じました。カヤの生地を製作に使いましたが、年配の皆さん懐かしそうに話が弾み、わかり合う事のヒントをいただきました。作品入れに使う、新巻鮭の木箱も、本場ですので話の種になりました。

皆様

作品が完成しました。皆様と作陶したことが、つい昨日のように感じますが一ヶ月が過ぎてしまい、大変お待たせしたことをお詫びいたします。作品は、お使いになり他の方に見せ合い楽しんで下さい。

短い時間ですが皆様とご一緒させて頂き大変楽しく過ごしました。私としましては、皆様に喜んで頂けるなら、細々ながら同じようなことをつづけたいと思っております。皆様にはお願いですが、作陶された感想、良かったこと、不満だったことなどを遠野まごころネットへお寄せ下さい。参考にさせていただきます。

作品の焼き上がるまで

①作る



みんなで楽しく作る。

②乾燥



1週間ぐらい乾かす。

③素焼



窯に入れ800℃で焼く。

④釉薬掛け



釉薬をかける。

⑤窯詰め本焼



窯に入れ1240℃で焼く。ぴかぴかの作品できあがり。

⑥焼き上がり



せ下さい。

※釉薬(色)を指定していただきました。

※窯は電気窯です。

※乾燥は約1週間。

※素焼き時間は8時間です。

※本焼は15時間、火の通りを考え1240℃を1時間保ちます。

※使い方は一般の陶器と同じです。

質問などがありましたら、メールか電話で問い合わせ
馬場咲夫

遠野まごころネット担当者への手紙

宇野様

無事昨日18:00に帰宅し、皆さんの作品整理を終えたところです。まごころネットのお世話で、仮設住宅での陶芸教室実現し、ありがとうございます。

私事ですが、同行の娘、万里子は自身の就職先での事から、統合失調症です。ストレスに弱い病気ですので、同行は心配したのですが、ノルマのない事と自己責任が、本人にとってちょうど良い負荷だったらしく、良い状態で終わりました。今後のため本人の自信の種が一つ増えて、このことも親として大変嬉しいです。

ほんの短い時間でしたが、各仮設住宅で感じたことを書かせて頂きます。思い違い、誤解もあると思いますが、おゆるし下さい。

上中島仮設住宅 8名

最初に行ったところで、人数的にはちょうど良かったです。皆さん楽しく作陶されたようで、終わりに世話人さんから、象の手ふき、負けない像をいただきました。

中妻仮設住宅 18名

大人数で、私の能力不足もあり、一人ずつへのお世話が出来ません。かたよらず一人一人への声かけが大切なのですが、この人数では出来ませんでした。もう一つ感じたのが、都会的な人が多く、垢抜けている印象を持ちました。

下権現堂仮設住宅 6名

人数的にはちょうど良く、楽しく作りました。支援員が若く、賑やかで明るく良いのですが、相手の話を聞く姿勢が無く、その分利用者の声が少なく感じました。

大豆沢仮設住宅 5名

仮設住宅内に不幸があり参加者が少なくなりました。現地の支援員の方の、話を聞く姿勢がしっかりしていて、利用者の話もよく聞けました。落ち着いて作陶も出来て、私としては印象深い場所です。

以上印象を記しました。余談ですが、東北でお茶というと、緑茶のイメージがあったのですが、コーヒー紅茶の方が多く、私の先入観が裏切られました。カヤの生地を道具に使用しましたが、年配の皆さん懐かしそうで、話が弾みました。

仮設への移動が一日200kmは私に経験が無く、岩手県は広いと感じました。

馬場咲夫

第2回岩手県陶芸教室参加者募集

2012/9



陶芸教室を被災地仮設住宅集会所で行います。岩手県のボランティアセンター遠野ふるさとネットのお世話により、岩手県大船渡市仮設住宅でミミズク埴輪を作ります。報道でご存じのとおり、入居の方は一定期間の後退去せねばならず、また色々な困難のなかにおられます。ほんの少しお役に立ちたく企画し、参加者を募集します。

- ★10月29日(月)6:00教室出発、11月1日(木)18:00教室着、3泊4日。
- ★30日午前下権現堂、午後大豆沢。31日午前小中井、午後佐倉里。
- ★作る作品はミミズク埴輪。仕事は製作補助、用意片付け。
- ★費用は往復の車代ワリカン、約8000円。ボランティア保険1000円、3泊4日の食費、土産代など。
- ★宿泊は遠野まごころネットに宿泊無料、寝袋持参。
- ★募集は3名、それ以上でも可能。希望の方に馬場が説明します。

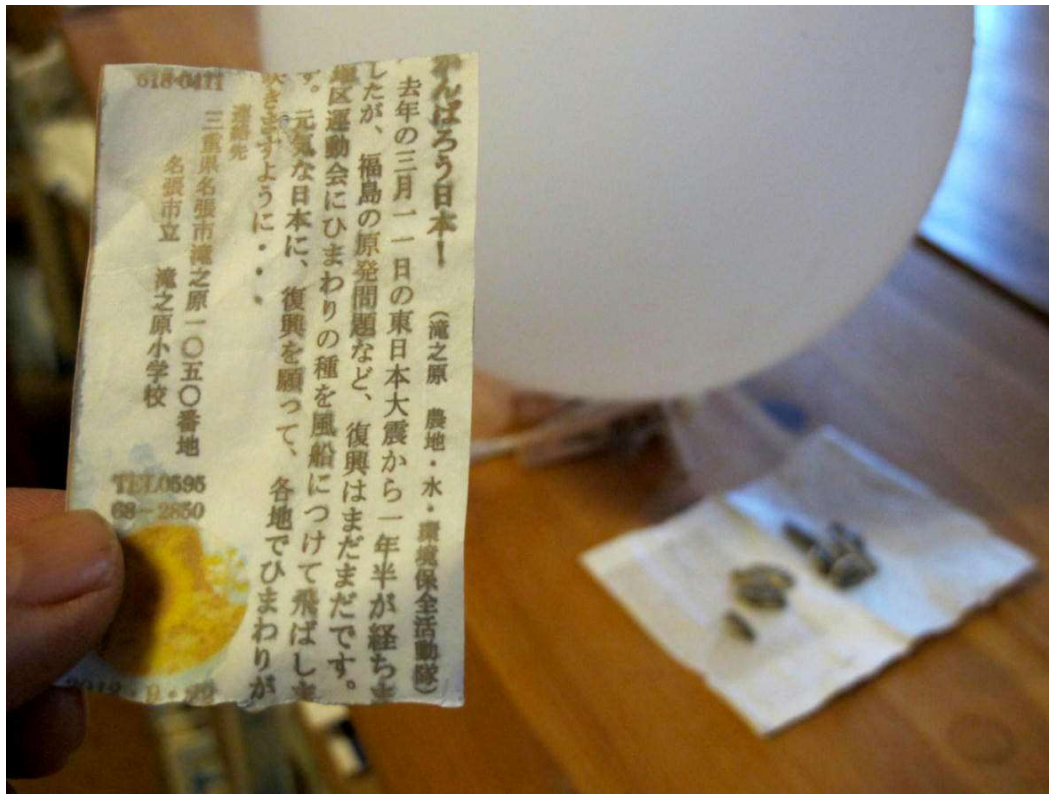
皆様へお願い



10月29日(月)より岩手県大船渡市の仮設団地4カ所でミミズク埴輪作りを、今回は中安、金子、馬場でしてきます。

現地の方々は、多くの方が被災地を思うこと、また忘れないことが心の支えになると話しています。実際に現地に行けなくても以下の形で参加頂けますので、ご賛同の人はよろしくお願ひします。

- ①ミミズク埴輪原型作り。400gの野焼土で原型を作る。
手から手へ、皆様の分かち合いの気持ちを届けます。声を掛けて頂ければ作り方をお教えします。
- ②ガソリン代、高速代への募金。一口500円。
もちろん何口でも歓迎です。募金箱へお願ひします。



2012年9月23日(日)朝、犬の散歩で家を出たら、震災支援ひまわりの種付き風船を見つける。前日に三重県名張市滝之原小学校の皆さんが地区運動会で放った風船が、西の風に乗って東京の我が家に一晩で到着。私も震災支援を少ししているので、とてもうれしい。

第2回岩手県大船渡市仮設団地で陶芸教室

馬場作成



皆様のお力添えで、中安、金子、馬場が大船渡市の仮設団地で、ボランティアをしてきました。

皆様からの募金25450円は、高速代ガソリン代約30000円に使わせて頂きました。粘土の原型も仮設団地の方々が丹念に2時間をかけ、フクロウに仕上げ、教室に帰り焼成を待っています。

仮設団地の方々は大変喜ばれ、その気持ちが私たちに伝わり共に楽しく過ごしました。



下権現堂仮設団地



思いがけず昼食の接待。馬場は2回目なので和気あいあい。次回は泊まるように言っ頂く。



大豆沢仮設団地のみなさん。



男性3名参加。



前回訪問の写真が貼られていた。



小中井仮設団地。隣部落の大豆沢から前回の教室を聞いてまごころネットに申し込む。



木町仮設団地。6戸の車椅子仕様、障がい者用仮設。



お世話になった遠野まごころネット本部全景。宿泊は50畳の大部屋雑魚寝と朝の朝礼。



運転は2時間交替



隣、霧の猿ヶ石川、白鳥が来る。



昼食に大船渡の有名人、えんがわのお母さん86才。土産の干物購入を相談すると、すぐ魚屋に電話をしてくれる。

みなさんのフクロウが焼き上がりました



皆さんと作りましたフクロウが焼き上がりました。中安、金子、馬場そしてボランティア橋爪さん本間さん、まごころネット佐々木さん、平野さん、大船渡のみなさんと共に楽しく過ごしました。ありがとうございました。

私たち3人、野々田屋台村のえんがわでおいしいサンマを食べ、そこで紹介して頂き吉田商店で干物セットを土産にしました。あまり楽しかったので来年また、別の作品を持ち伺います。

馬場 咲夫

フクロウ埴輪の焼き上がるまで

①原型を作る



②フクロウに作る



③かわかす



東京の皆さんで原型作り。 大船渡の皆さんでフクロウに。 東京に持ち帰り乾燥。

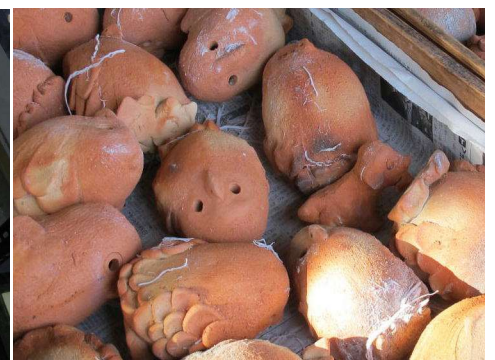
④焼く



⑤窯出し



⑥焼き上がり



藁と木炭を入れ850℃で焼く。 翌日窯出し。 きれいな焦げ目が付きました。

第3回大船渡の皆さんと陶芸教室を楽しむ 2013.7



7月8日(月)～11日(木)、岩手県大船渡市地域の皆さんと中安、馬場、馬場純子で陶芸教室をして来ました。震災から2年数ヶ月、瓦礫もなく落ち着いて見えますが、消えた町の復興はまだです。

瓦礫撤去に伺った2年前は多くの方が亡くなった場所なので、写真を撮っていけない、笑ってはいけない、腰掛け

てはいけないと土地の方々に気を遣いましたが、今回は皆さんと笑い合い、私たちもおいしいものを食べ呑み、楽しめるようになりました。



9日(火)午前 赤沢雇用促進住宅、見なし仮設の皆さん。
既存の空き室を行政が仮設住宅と見なしでている。入居が分散し個人情報住所は公開されず援助が届きにくい。コミュニケーションがとれにくく孤立化の問題があるが、皆さんでイベント、お茶の会をして交流をしている。



9日(火)午後 赤碕町後の入吉田様宅、地域にお住まいの自力再建の方々、

援助は少なく全て自費。自主グループを作り地域交流を進めている。



10日(水)午前 末崎町小中井仮設団地談話室。仮設団地にお住まいの方々。去年伺いフクロウ作りをしたところ。1回だけの訪問が多いので2回目は喜んで頂き私たちも嬉しい。ラジオ体操は気仙語版。



10日(水)午後 盛町木町仮設団地談話室。仮設団地にお住まいの方々。町中の公園にある3世帯入居、障がい者向け仮設団地。2回目なのでリラックスして作陶を楽しんで頂く。支援の人たちの顔写真がきれいにかざってある。



お世話になった森さん、中村さん、震災後初期からコミュニティー作り、気持ちと気持ちをつなぐ、ボランティアをつづけている。中村さんからお聞きした今の問題点は、震災当初から信頼関係を築いてきた人たちが、自宅を自費で再建し仮設を出る人、残る人、遠方に引っ越す人、復興住宅が決まった人、自宅半壊の人、被害に遭わなかった人、それぞれ立場の違いが刻々と変わる中で、新たな格差が広がりつつある。人の交流する機会作りがもっと必要になる。

往復、宿泊、おいしい物、一本松



往復は車、交代で運転。片道480km、約10時間。高速がほとんどで走りやすい。



宿泊は赤崎町大立仮設団地3K。一人一泊500円。キッチン風呂有り気楽で良い。



初日夜舟盛り、動いているウニ、口開け解禁日に当たる。昼は仮設屋台村。



講習後ウニ加工場で少し働き現物給、で夕食はまたまた豪華ウニ丼。

隣の陸前高田一本松、再建費用が無駄使いとの批判もあるが、現場で現物を見ると、ありがたいの気持ちになる。

皆様からの寄付、イベント積み立て金27120円は交通費などに使わせて頂き、大船渡の方々へも伝えました。ありがとうございます。食費その他の自費分は1人約18000円でした。

次回のテーマは「地域の方どなたも参加、会費を少し頂いて共に作陶を楽しむ」で10月に予定しています。大船渡の方たちと作陶、お茶っこ、仮設に泊まり、おいしい物を食べる旅です。どなた様も参加をおすすめします。

〒182-0011東京都調布市深大寺北町1-19-1 深大寺陶芸教室 TEL, FAX 042-483-6478

第4回大船渡の方々と作陶を楽しむ 2013.10



大船渡の方たちと作陶、お茶っこ、仮設に泊まり、おいしい物を食べる旅です。指導する技術はいりません。その場で共に作陶をし、お茶会を楽しめば、皆さんに喜んで頂けます。現地の方々の生活も、落ち着いた方、まだまだの方がおられ、報道では解らない話を伺う良い機会となります。旬のサンマ、碁石温泉も楽しみです。

期間、10月27日(日)～30日(水)陶芸教室6:00発18:00着

交通、往復共に自動車、片道10時間。

訪問、28日(月) ①大立仮設団地 赤崎町字大立113-1
②後ノ入公民館 赤崎町後ノ入49
②居場所ハウス 末崎町字平林54-1

29日(火) ①赤沢雇用促進住宅 大船渡町赤沢76-1
③下権現堂仮設団地 猪川町字下権現堂105-13

費用、交通費、宿泊食費、25000円程度。

宿泊、大船渡市赤崎町大立仮設団地。岩手県大船渡市赤崎町字大立113-1

※ 参加者は地域の社協でボランティア保険天災型1000円程度に加入。

参加者名簿

馬場咲夫 182-0011調布市深大寺北町1-19-1 042-483-6478
馬場純子

宮田浩子

小高武甫
小高利恵

現地コーディネーター 大船渡ボランティア中村純代

大船渡の皆さんへご挨拶

2013.12



陶芸教室での作品がきれいに焼き上がりました。お待たせしました、お送りします。みなさん楽しんで頂けましたでしょうか。私たちスタッフは良い思い出をたくさん頂きました。大船渡も4回訪問して、8カ所の方々と知り合えました。また来年も伺いますのでよろしくお願ひします。



皆さんと作りました



宿で点検修整



帰宅後乾燥素焼き800℃



釉掛け



本焼1240℃



完成窯出し



サンマの刺身を食べました。地元ですとおいしさが違いますね。

宿泊は大立仮設団地にお願いし写真のように宴会です。碁石海岸海楽荘の無料温泉も良かったです。

馬場咲夫 馬場純子 宮田浩子 小高武甫 小高利恵